

平成 20 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	普及	題名	品種	鉢物用リンドウ「花研鉢 2」
[要約]「花研鉢 2」は桃色の栄養繁殖性鉢物品種で、採穂用親株を無加温で管理しても 8 月下旬～9 月上旬に出荷できる。				
キーワード	リンドウ	栄養系	鉢物	技術部園芸研究室

1 背景とねらい

当研究室が育成した栄養繁殖性系統の中から平成 19 年度に鉢物用リンドウとしての適性評価を実施し、有望な 3 系統を選抜した(平成 19 年度研究成果)。今年度、その 3 系統を更に評価・選抜した結果、「花研鉢 2」が有望と認められたので、その品種特性を紹介する。

2 成果の内容

(1) 来歴及び育成経過

ササリンドウ系統とエゾリンドウ系統の交雑系統である「NO2001」を母親、ササリンドウ系統を父親として交配し、平成 17～20 年にかけて適性評価を実施した。

(2) 特性の概要(当年挿し木苗利用摘心栽培)

ア 開花期：育成地(北上市)付近では、採穂用親株の施設内無加温管理で 8 月下旬開花、露地管理で 9 月下旬開花となる(表 1)。県既存品種「ももこりん」に準じた採穂用親株の加温管理は必要としない。

イ 花：花色は花冠内面上部が明赤味紫(桃色)、花冠外面が赤味紫であり、花冠外面の着色が極少ないことから(表 2)、「ももこりん」に比べ明瞭な桃色を呈する。また、気温が 17 程度あれば、室内等の弱光下でも花卉展開する(表 3)。

ウ 草姿・仕立て：草姿が立性であり、総花数が 40 程度となることから(表 2)、鉢物仕立て生産を基本とする。

エ 枝 茎：一次側枝は 7～8 本程度発生し、茎径は 2 mm 程度とやや細めである(表 2)。

3 成果活用上の留意事項

(1) 挿し木苗利用とし、挿し木は天挿しとする。挿し木方法は県既存品種「こりん」に準ずる。

(2) 現地事例から、摘心を 2 回にすることにより、ボリュームが確保される。

(3) 茎が弱めで、開花時に花蕾等の重みで開張ぎみの草姿となるため、出荷時にリングを付ける等の必要がある。

(4) 葉枯病の発生は、県既存品種「ももこりん」と比較して、同等～やや少ない。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

県下全域

(2) 期待する活用効果

普及見込み生産量 10,000 鉢/年

5 当該事項に係る試験研究課題

(191) りんどうの品種育成 (191-1000) りんどうの品種開発 [S 49～H 22/令達]

6 研究担当者

中里崇、川村浩美

7 参考資料・文献

平成 19 年度 試験研究成果「りんどう鉢物品種有望系統の特性」

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 花研鉢2の親株加温時期・開花期

年次	親株入室 時期	親株加温 時期	挿し木 時期	開花期
H17(農研)	H19年12月下旬	1/15	3/1	8月4半旬
H18(農研)	"	2/1	3/10	8月5半旬
H19(農研)	"	2/15	3/15	9月1半旬
H20(農研)	"	2) ²⁾	3/25	8月6半旬
H20(現地)	1) ¹⁾	1) ¹⁾	5/7	9月5~6半旬

1)露地管理

2)無加温

* 農研 (H17~20)の栽培概要

天挿し苗利用の4号鉢1本植、1回摘心、6月下旬~開花期まで10日おきに液肥(N,P,K各20%、N成分200ppm)で追肥

* 現地(北上市、H20)の栽培概要

天挿し苗利用の3.5号鉢1本植、2回摘心、挿し木後施設内管理、7月下旬に置肥(N,P,K各10%、2g/鉢)

表2 花研鉢2の特性(平成20年、農業研究センター)

	開花期 (月・半旬)	花段数 (段)	総花数	花冠の色 ³⁾		花冠外面の 着色程度 ⁴⁾	花冠内面上 部の斑点 ⁵⁾	花冠の大きさ(cm)		花冠先端 の展開
				内面上部	外面			長さ	直径	
花研鉢2 ¹⁾	8・6	3.6	42.8	明赤味紫 (8905)	赤味紫 (8911)	微	中	5.3	1.5	外反転
ももこりん ²⁾	9・3		34.0	明赤味紫 (8905)	浅紫 (8603)	少	中			外反転

草姿	草丈 (cm)	節数	茎の着色 ⁶⁾	茎径 (mm)	一次側枝数 ⁷⁾ (本)	葉の大きさ(cm)	
						葉長	葉幅
立性	15.2	10.4	多	1.9	7.5	2.8	1.4
半立性	10.4	6.6	少		3.4		

1)親株無加温、挿し木(天挿し)3/25、鉢上げ(4号鉢1本植)4/25、摘心4/25

2)H9研究成果より(花冠外面の着色程度、草姿、茎の着色はH20観察)、親株加温開始1/21、挿し木(天挿し)3/25、鉢上げ(3号鉢1本植)5/7、摘心5/21

3)日本園芸植物標準色票による

4)アントシアニンによる着色程度を甚>多>中>少>微の5段階で評価

5)~6)多>中>少の3段階で評価

7)摘心した主茎から発生した側枝



図1 花研鉢2

表3 花研鉢2の開花特性

試験区	12	14	15	16	17
照明有 ¹⁾	閉	半開	開	開	開
照明無	閉	閉	半開	半開	開

* 花冠先端の状態が閉~半開(爪咲き)~開(外反転)の3段階で評価

* 花の状態が開葯前の株を供試(各区n=6)

* 「開」状態の鉢を12一定の人工気象器へ入れ、16時間経過後の開花状況を調査。その後、14一定に気象器内温度を上昇させ、16時間後の開花状況を同様に調査。その後も順次温度を上昇させ、同様に調査。

1)照明は蛍光灯(昼白色、270~310 $\mu\text{molm}^{-2}\text{s}^{-1}$)を使用し、常時点灯